

「今福線」の魅力が地域を動かす

大畑 富紀

1. はじめに

今福線研究分科会は今年度で2年目を迎え、路線状況もおおむね把握でき、本格的に地域に貢献できる題材に向け活動する年となった。昨年度は旧線と新線の現地踏査を実施し、調査結果からいろいろな課題が見えてきたとともに、アーチ橋での音の現状など新たな発見もあった。また、地域との交流も始まり、寿会などの取り組みを教えていただき、技術士会からはアーチ橋の反響音の説明や橋梁名「おろち泣き橋」の提案を行った。

本分科会は7月下旬に打合せを行い、2年から3年に延長し、鉄道路線マップの作成を目標とすることが決定した。そのため、今年度は昨年調査できなかった旧線の追加調査と地元石本さんを通じて地域の方と交流会を行った。以下にその状況を報告する。

2. 昨年の活動から地元たよりへの掲載

昨年12月にはめがね橋の音響を地元伝えるために、佐野町にお住まいの石本先生を訪ねた。このとき、頭上のアーチ部より橋梁内を水が流れているかのように聞こえ、4連アーチを大蛇の胴に例え「おろち泣き橋」と提案した。

早速、年明けの佐野町公民館だより3月号に掲載していただき、石本さんはこのことを伝えるに弊社まで「たより」を届けに来てくださった。



図1：佐野町公民館だより

3. 地元ケーブルTVでの放送と標柱

今年、偶然ではあるが、7月19日に地元ケーブルTV（石見ケーブルビジョン）にて『新番組!! 怪傑!? 石見ふしぎ探検社～歴史のふしぎを探ってみよう!～謎の建造物を探れ! 幻の鉄道“広浜線”』と題し、石本さんの紹介のもと、広浜線の構造物、命名された「おろち泣き橋」やアーチ橋の音の現象について放送された。後に、石見ケーブルビジョン本社を訪れ、制作の経緯や広浜線に詳しい方の紹介など情報を得ることができた。



写真1：TVでの一場面

また、この番組を通じて、「おろち泣き橋」の標柱が地元寿会により新たに設置されていることを知った（写真2）。

早速、現地に行ってみると『眼鏡橋 別名 おろち泣き橋』とみごとな標柱が建立されていた。このように研究部会を通して提案したことが、形になって現れ、地元で貢献できたことは嬉しいことであった。



写真2：おろち泣き橋の標柱



写真3：学生も体験できる音のふしぎ

4. 今年度の追加調査での発見

追加調査は、一般の人は入ることができず研究部会でも昨年調査できなかった旧線の約600mを調べることとなった。11月5日に予備調査、11月19日本調査と「地元の皆さんとの会」を実施した。また、予備調査時には石本さんにご足労いただき、案内も兼ねて同行していただいた。

・新線と旧線の分岐点

この場所は新線と旧線の双方の橋梁がある非常にめずらしい場所であり、今福線の名所の一つでもある。今回は河川(下府川)際まで降りて周辺の状況やビューポイントはないか調査した。ただし、桁下部は川沿いであり、足下も悪いことから一般の人が容易に行ける場所ではなかった。



写真4：旧線の1番目のアーチ橋



写真5：新線と旧線

・2番目のアーチ橋

このアーチ橋はこれまで写真などはなく未知の橋梁であった。既存資料では3連アーチ橋と記載があったが、実際は4連アーチ橋であった。また、河川の上流は千畳敷とまではいかないが、龍の鱗にでも例えられるような小さいながら見事な景観ポイントが存在した。

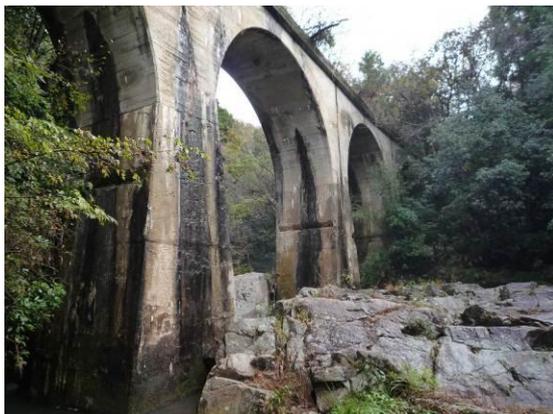


写真6：2番目のアーチ橋



写真7：下府川の景観

- ・ 3 番目のアーチ橋とトンネル

このアーチ橋も 4 連アーチ橋であることが確認できた。ここまで約500mあるが、草木が多く橋梁の上でも歩くことは容易ではなかった。

また、トンネル坑口付近には水管橋らしき構造物があった。石本さんによると、昔はサイフォン構造で用水を取水していたが、水管橋に変更し、現在も使用しているようだ。



写真 8 : 3 番目のアーチ橋



写真 9 : トンネルと水管橋

- ・ 愛しいミステリーサークル？

現地調査の道中、ミステリーサークルらしきものを発見した。近年は広浜線が近年土木遺産にも認証され、調査イベントや映画撮影などで人が多くなってきており、歓迎のメッセージであろうか。二番稲を利用した愛しいミステリーサークルであった。



写真 10 : ミステリーサークル

- ・ 新幹線の地震計

この場所は昨年も調査した箇所であるが、電気が配線してあるのは気がついたが、何の施設かわからなかった。

石本さんに説明していただき、新幹線の地震計が設置してあることがわかった。



写真 11 : 旧線のトンネル

5. 地域との交流

石本さんを通じて地元の方からの意見交換の場として「地元の皆さんとの会」を行った。

技術士会の研究部会での活動内容、今福線マップ作成予定を紹介し、地元の方から維持保存の考え方、困っていることなどを聞くことができた。

〔地元の皆さんの意見〕

- ・下流にも鉄道跡地があるが、樹木があるため、どのように整備したらよいかわからない。
 - ・若い人（50歳以下）は興味がないのでは。
 - ・お年寄りには興味があるがホームページは見ないのでは。
 - ・地元でも「おろち泣き橋」まだ行き方がわからない。聞かれても説明できない。
 - ・他から来られた人に、住民の方が地域のことを説明できるようにならないといけない。
 - ・これまでは個人的な動きであった。今後、地域役員会などを通じて協力をお願いしたい。
- また、技術士会はなにかしてくれる団体のように思われたのか、下記のような意見もあった。
- ・技術士会でどこまで（いくら）していただけるのか。
 - ・おろち泣き橋とはどんな音がする場所なのか。
 - ・防護柵が錆びており危ない。手すりをどうにかしてほしい。

一生懸命取り組む人とそうでない人との差がかなりあるように感じた。また、「お金をかけず、案内板などできるところから始める」という思いも伝え、会は無事終了した。

6. 新たな課題と来年度以降の展望

今回の追加踏査と地元との交流を踏まえ、新たな課題は以下の3点と考える。

- ・地元の活動；近年土木遺産の保存活動など地域のために一生懸命活動されている方がおられる一方で、若い方や役員の方の協力も必要である。
- ・おろち泣き橋；おろち泣き橋周辺は網筋の防止柵が設置されており、進入することができなくなっていた。調査時には個人の土地への立ち入り禁止のためかと思われた。その後、地元の方に確認すると事実猪柵とのことだった。ただ、このままだとせっかく発見し標柱までできたポイントを一般の方に紹介できない状態となってしまう。
- ・案内板；佐野町の中心部には町内を案内する立派な看板があるのだが、道路沿いの擁壁にあるため、人が立ち止まって見るできない。



写真 14：道路沿いの案内看板

今年度は、標柱や看板の提案など小さなことでも地域に役立つことを体験できた。また、今回の調査で、見る価値のある新たなポイントを発見することができた。今後はこれをどのように選定し、地元の看板も考慮しつつ、マップに反映していくかが来年度の活動内容と考える。

そのため、来年度は本格的に作成するマップが少しでも地域に役立つ成果となるように、微力ながら協力し研究活動を続けたいと考えている。



写真 12：地元の皆さんとの会



写真 13：里道の猪柵



写真 14：道路沿いの案内看板